

OSSTech 製

OpenLDAP 2.3 パッケージ

インストールガイド v2.0



OSSTech

オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2008 年 12 月 10 日

更新日: 2010 年 8 月 30 日

リビジョン: 2.0

目次

1. はじめに.....	1
2. OpenLDAP 2.3 パッケージのインストール.....	2
2.1 対応 Linux ディストリビューション.....	2
2.2 提供する RPM パッケージ.....	2
2.3 OpenLDAP 2.3 パッケージの新規インストール.....	3
2.4 OSSTech 製 OpenLDAP2.3 パッケージの各種コマンド.....	3
2.5 OpenLDAP サーバーの起動・停止.....	4
2.6 起動オプションの設定.....	4
2.6.1 -l オプションで syslog のファシリティを設定したい場合.....	4
2.6.2 -h オプションでサービスの URL を設定したい場合.....	4
3. OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート.....	5
3.1 Linux 版パッケージのアップデート.....	5
3.1.1 インストール済みのパッケージの確認.....	5
3.1.2 新版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順.....	5
3.1.3 旧版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順.....	7
3.2 Solaris10 版パッケージのアップデート.....	8
3.2.1 RPM 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順.....	9
3.2.2 PKG 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順.....	11
4. インストールガイド更新履歴.....	13
4.1 2008/12/10 初版 : OpenLDAP 2.3 インストールガイド v1.0.....	13
4.2 2010/08/30 第2版 : OpenLDAP 2.3 インストールガイド v2.0.....	13

1. はじめに

本ドキュメントは、弊社提供の **OpenLDAP** パッケージを導入するための手順書です。

OpenLDAP パッケージのインストールの際に、必ず本ドキュメントの内容を確認してから、作業を実施してください。

本ドキュメントに関する記載内容について、疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

2. OpenLDAP 2.3 パッケージのインストール

2.1 対応 Linux ディストリビューション

弊社が提供する OpenLDAP 2.3 パッケージは、以下のディストリビューションごとにパッケージを提供しています。

- RedHat Enterprise Linux 5(x86, x86_64)
同一パッケージで、下記ディストリビューションにも対応しています。
 - CentOS 5(x86, x86_64)
- RedHat Enterprise Linux 4 (x86, x86_64)
同一パッケージで、下記ディストリビューションにも対応しています。
 - MIRACLE LINUX V4.0(x86, x86_64)
 - Cent OS 4 (x86, x86_64)

2.2 提供する RPM パッケージ

弊社が提供する Linux 版 OpenLDAP 2.3 は、以下の RPM パッケージによって構成されています。

- osstech-openldap-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-openldap-servers-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-openldap-clients-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-openldap-servers-overlays-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-openldap2.3-libs-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-openldap-servers-perl-2.3.43-25.el5.i386.rpm
- osstech-db4.5-4.5.20-5.el5.i386.rpm
- osstech-db4.5-utils-4.5.20-5.el5.i386.rpm
- devel/osstech-db4.5-devel-4.5.20-5.el5.i386.rpm
- devel/osstech-openldap-devel-2.3.43-25.el5.i386.rpm

上記パッケージに付随するバージョン番号、リリース番号(例: 2.3.43-25)は、弊社で OpenLDAP 2.3 パッケージの改善、修正等に伴い、番号が変更されます。

x86_64 版の OpenLDAP 2.3 パッケージでは、アーキテクチャの種別を表す” i386”の代わりに” x86_64”となります。

devel ディレクトリのパッケージは、OpenLDAP サーバーの運用には不要なため、必ずしもインストールする必要はありません。

2.3 OpenLDAP 2.3 パッケージの新規インストール

弊社提供の OpenLDAP 2.3 パッケージは、`/opt/osstech` ディレクトリに新規インストールされます。

以下のインストール例では、弊社提供のパッケージ一式が `/tmp/pkgs` ディレクトリにコピーしてあるものとして手順を説明します。

RPM パッケージのインストールは、**root** ユーザのみ実施することができますので、最初に **su** コマンドで **root** ユーザになります。

```
$ su
Password: *****(root ユーザのパスワードを入力し、Enter を押します)
# (パスワードが正しければ、プロンプトが # になります)
```

`/tmp/pkgs/` に弊社提供のパッケージ一式がコピーしてあることを確認します。

```
# cd /tmp/pkgs
# ls
base  openldap
```

まず最初に、**base** ディレクトリにある **osstech-base**、**osstech-support**、**osstech-daemontools** パッケージをインストールします。既にこれらのパッケージがインストールされている場合は、この手順は不要です。

```
# cd base
# rpm -ihv *rpm
```

続いて、**OpenLDAP 2.3** パッケージ一式をインストールします。

```
# cd /tmp/pkgs/openldap
# rpm -ihv *rpm
```

2.4 OSSTech 製 OpenLDAP2.3 パッケージの各種コマンド

OSSTech 製 OpenLDAP2.3 パッケージは、`/opt/osstech` ディレクトリ配下にインストールされます。

- LDAP デーモン(`/opt/osstech/sbin/slapd`)
- LDAP ユーティリティ(`/opt/osstech/bin/ldapsearch`, `/opt/osstech/bin/ldapadd` など)
- 管理者用 LDAP ユーティリティ(`/opt/osstech/sbin/slapadd`, `/opt/osstech/sbin/slapcat` など)
- 起動スクリプト (`/etc/init.d/osstech-ldap`)
- 設定ファイル (`/opt/osstech/etc/openldap/slapd.conf`, `/opt/osstech/etc/openldap/ldap.conf` など)
- schema ファイル (`/opt/osstech/etc/openldap/schema/`ディレクトリ)
- LDAP データー格納ディレクトリ (`/opt/osstech/var/lib/ldap`)

- BDB ユーティリティ (/opt/osstech/sbin/slapd_db_recover など)

2.5 OpenLDAP サーバーの起動・停止

弊社提供の OpenLDAP 2.3 サーバーを起動するときは、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap start
```

弊社提供の OpenLDAP 2.3 サーバーを停止するときは、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap stop
```

2.6 起動オプションの設定

slapd を起動する際に、オプションを指定したい場合は、次の各設定を行った後に、osstech-ldap を再起動してください。

2.6.1 -l オプションで syslog のファシリティを設定したい場合

syslog のファシリティを設定したい場合は、/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/ SYSLOGFACILITY ファイルに-l オプションに渡したい文字列を設定します。

```
# echo LOCAL5 > /opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SYSLOGFACILITY
```

2.6.2 -h オプションでサービスの URL を設定したい場合

サービスの URL を設定したい場合は、/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SERVICES ファイルに-h オプションに渡したい文字列を設定します。

```
# echo "ldap://127.0.0.1/ ldaps://127.0.0.1/" >
/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SERVICES
```

ただし、SERVICES ファイルに何も設定されていないデフォルト状態の場合、LDAP サーバーのサービス URL として、次の URL が設定されます。

- TLS が有効な場合
 - “ldap:/// ldaps:///”
- TLS が無効な場合
 - “ldap:///”

3. OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート

3.1 Linux 版パッケージのアップデート

3.1.1 インストール済みのパッケージの確認

弊社が提供している Linux 版 OpenLDAP 2.3 パッケージには、提供時期により以下の 2 種類のパッケージが存在します。

1. /usr 以下に OpenLDAP 2.3 のバイナリがインストールされている (旧版)
2. /opt/osstech 以下に OpenLDAP 2.3 のバイナリがインストールされている (新版)

まず最初にご利用中の OpenLDAP 2.3 パッケージが、いずれのパッケージであるか確認してください。以下のコマンドを実行して、新版か旧版か確認することができます。

```
# rpm -q osstech-openldap
osstech-openldap-2.3.43-21.el5 ← 結果が返ってくる場合は新版がインストールされています。

# rpm -q osstech-openldap
パッケージ osstech-openldap はインストールされていません。

# rpm -q openldap
2.3.43-1.5_OSSTECH
このエラーメッセージが表示される場合は、旧版がインストールされています。
```

3.1.2 新版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順

新版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

パッケージのアップデート前に、OpenLDAP の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /sbin/service osstech-ldap stop
```

登録されている LDAP エントリの LDIF 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /opt/osstech/sbin/slapcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では `/srv/osstech/software/RPMS` に展開したことを前提として記述します。

`/srv/osstech/software/RPMS` に弊社提供の OpenLDAP 2.3 パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ls base
osstech-base-3.0-51.el5.noarch.rpm
osstech-daemontools-0.76-36.el5.i386.rpm
...
# ls openldap
osstech-openldap-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-clients-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-overlays-2.3.43-25.el5.i386.rpm
...
```

最初に `base` ディレクトリに含まれるパッケージ一式のアップデートを `rpm` コマンドで行います。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
準備中... ##### [100%]
    パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
    パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、`osstech-base` パッケージと `osstech-support` パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、`rpm` コマンドで弊社提供の OpenLDAP 2.3 パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm
```

また、システムに開発用の **devel** パッケージもインストール済みの場合は、次のように **devel** パッケージも一緒に指定して、**OpenLDAP 2.3** パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm openldap/devel/*.rpm
```

以上でパッケージのアップデートは完了です。

3.1.3 旧版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順

旧版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に **su** コマンドで **root** ユーザーになります。

```
$ su -
```

Password: *root* のパスワードを入力 (画面には表示されません)

パッケージのアップデート前に、**OpenLDAP** の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /sbin/service ldap stop
```

登録されている **LDAP** エントリの **LDIF** 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /usr/sbin/slappcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では **/srv/osstech/software/RPMS** に展開したことを前提として記述します。

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の **OpenLDAP 2.3** パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ls base
osstech-base-3.0-51.el5.noarch.rpm
osstech-daemontools-0.76-36.el5.i386.rpm
...
```

```
# ls openldap
openldap-2.3.43-1.6_OSSTECH.el5.i386.rpm
openldap-clients-2.3.43-1.6_OSSTECH.el5.i386.rpm
compat-openldap-2.3.43_2.2.29-1.6_OSSTECH.el5.i386.rpm
...
```

最初に **base** ディレクトリに含まれるパッケージ一式のアップデートを **rpm** コマンドで行います。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
準備中... ##### [100%]
    パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
    パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、**osstech-base** パッケージと **osstech-support** パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、**rpm** コマンドで弊社提供の **OpenLDAP 2.3** パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm
```

また、開発用の **devel** パッケージもシステムにインストール済みの場合は、次のように **devel** パッケージも一緒に指定して、**OpenLDAP 2.3** パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm openldap/devel/*.rpm
```

以上でパッケージのアップデートは完了です。

3.2 Solaris10 版パッケージのアップデート

弊社が提供している Solaris10 版 **OpenLDAP 2.3** パッケージには、提供時期により以下の 2 種類のパッケージが存在します。

1. **/usr** 以下に **OpenLDAP 2.3** のバイナリがインストールされている (**PKG** 版)
2. **/opt/osstech** 以下に **OpenLDAP 2.3** のバイナリがインストールされている (**RPM** 版)

まず最初にご利用中の **OpenLDAP 2.3** パッケージが、いずれのパッケージであるか確認してください。

以下のコマンドを実行して、RPM 版か PKG 版か確認することができます。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -q osstech-openldap
osstech-openldap-2.3.43-21.el5 ← RPM 版 OpenLDAP 2.3 がインストールされています。

# pkginfo osstech-openldap
application osstech-openldap OpenLDAP servers, clients and libraries 2.3.43-4
PKG 版 OpenLDAP 2.3 がインストールされています。
```

3.2.1 RPM 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順

RPM 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

パッケージのアップデート前に、OpenLDAP の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap stop
```

登録されている LDAP エントリの LDIF 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /opt/osstech/sbin/slappcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の OpenLDAP 2.3 パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ls bootstrap
osstech-base-3.0-51.sol10.noarch.rpm
osstech-base-os-3.0-51.sol10.i386.rpm
...
```

```
# ls base
osstech-cronie-1.2-1.6.sol10.i386.rpm
osstech-daemontools-0.76-36.sol10.i386.rpm
osstech-libtool-ltdl-2.2.6-4.sol10.i386.rpm
osstech-logrotate-3.7.7-1.3.sol10.i386.rpm

# ls openldap
osstech-openldap-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-clients-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-2.3.43-25.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-overlays-2.3.43-25.el5.i386.rpm
...
```

最初に **bootstrap** ディレクトリに含まれるパッケージ一式のアップデートを **rpm** コマンドで行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
準備中... ##### [100%]
    パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
    パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、**osstech-base** パッケージと **osstech-support** パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、**base** ディレクトリのパッケージのアップデートを行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

続いて、**rpm** コマンドで弊社提供の **OpenLDAP 2.3** パッケージ一式をインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm
```

また、システムに開発用の **devel** パッケージもインストール済みの場合は、次のように **devel** パッケージも一緒に指定して、**OpenLDAP 2.3** パッケージをアップデートします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm openldap/devel/*.rpm
```

以上でパッケージのアップデートは完了です。

|| 3.2.2 PKG 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデート手順

PKG 版 OpenLDAP 2.3 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

パッケージのアップデート前に、OpenLDAP の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /etc/init.d/ldap stop
```

登録されている LDAP エントリの LDIF 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /opt/osstech/sbin/slapcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/PKGSに展開したことを前提として記述します。

/srv/osstech/software/PKGS に弊社提供の OpenLDAP 2.3 パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/PKGS  
# bzip2 -d osstech-openldap-*.bz2  
# ls  
osstech-openldap-2.3.43-6.sol110.i386.pkg
```

最初にシステムに導入されている古い OpenLDAP 2.3 パッケージを削除します。

```
# pkgrm osstech-openldap  
次のパッケージは現在インストールされています:
```

```
osstech-openldap  OpenLDAP servers, clients and libraries 2.3.43-4
(i386) 2.3.43,REV=4
```

このパッケージを削除しますか [y,n,?,q] y ← **y**を入力

インストール済みパッケージインスタンス <osstech-openldap> を削除中です。.....

このパッケージには、パッケージの削除の処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行されるスクリプトが含まれています。...

このパッケージの削除処理を継続しますか [y,n,?,q] y ← **y**を入力

...

<osstech-openldap> の削除に成功しました。...

続いて、新しい **OpenLDAP 2.3** パッケージをインストールします。

```
# pkgadd -d ./osstech-openldap-2.3.43-6.sol10.i386.pkg
```

The following packages are available:

```
1  osstech-openldap      OpenLDAP servers, clients and libraries 2.3.43-6
                               (i386) 2.3.43,REV=6
```

Select package(s) you wish to process (or 'all' to process

all packages). (default: all) [?,??,q]: ← **Enter**を入力します。

以上でパッケージのアップデートは完了です。

4. インストールガイド更新履歴

4.1 2008/12/10 初版 : OpenLDAP 2.3 インストールガイド v1.0

- 初版

4.2 2010/08/30 第2版 : OpenLDAP 2.3 インストールガイド v2.0

- 最新の OpenLDAP 2.3 パッケージの構成に合わせて変更
- パッケージのアップデート手順について記載